

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

企業は社会貢献で理念を共有へ 鶴 光太郎（慶応大学大学院教授）

1. 「人は何のために働いているのか」を企業は考えなくてはならない。企業が利潤の最大化を追求することは大前提だが、従業員はそのことには感動しない。賃金も必要だし人によっては出世を求めるかもしれないが、働く人の多くは、社会に役に立つ、人のためになっているといった社会貢献を大事にする。企業もそういう理念を従業員と共有できないと、とがった人材をつなぎ留めておくことはできない。
2. SDGs（持続可能な開発目標）やESG（環境・社会・企業統治）が重視され始めた。これまでは、企業がこうした取り組みをコストだと思っていたから前に進まなかった。しかし、今はSDGsやESGに積極的に関与することが消費者から評価され、長い目で見たら利潤最大化、企業価値の最大化にもつながると気がつく企業が増えてきた。
3. これから働く人に必要なことは2つの「ジリツ」だ。自ら立つ「自立」と、自ら律する「自律」。日本でも働き方改革で長時間労働や転勤が減り、本人や家族の意向を人事に反映させるようになってきた。こうした時代には、自分で自分のキャリアを選択する必要があるし、他方で自分を律することができないとやっていけない。自立と自律のできる人はイノベティブな仕事ができる。

（参考：「週刊東洋経済」2021年11月6日号）

経営者のための理念・哲学

成果をあげる能力

佐藤 等（ドラッカー学会理事）

1. 個人が仕事をとおし能力を習得し、自己成長することで、仕事の成果をあげ、その結果が組織業績に反映されることで両者のニーズが調和的に一致します。次に示す成果をあげる能力は、そのために身につけておかなければならない習慣的能力です。①時間を管理する②貢献に焦点を合わせる③自他の強みを生かす④最も重要なことに集中する⑤成果のあがる意思決定をする。
2. 特に②。「どのような貢献ができるか」と自問することは、自己開発のスタートラインに立つことです。そして③。自分の強みを磨きながら人生を歩んでいくのです。「自らの貢献を問うことは、可能性を追求することである」（ドラッカー「経営者の条件」）。愚痴や不平を言う前にモチベーションの起点は自分であることを自覚しましょう。

（参考：「致知」：2021年11月号）

経営者のための危機管理

世界の潮流を見失った官民の「内向き志向」

1. 「日本の経済界はガラパゴス状態だった」と話すのは、ESG（環境・社会・企業統治）投資に詳しいニューラル（東京・品川）の夫馬賢治代表だ。震災と原発事故が起きた11年の年初に開かれた世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）が、重要な節目だったという。毎年発表されるグローバルリスクの中で、気候変動が初めて「最大リスク」に選ばれたのだ。以来、世界財界のトップの間では、気候変動による経営環境変化への対応の巧拙が命運を分けるという共通認識が醸成された。
2. それから10年。コロナ下の今年の総会でも「感染症」を超えて「気候変動」が最大リスクに位置づけられた。ここに至ってようやく多くの日本の財界人は悟った。世界では既に、気候変動対策が経済と経営のあり方を決める「中心軸」になっていると。

（参考：「日経ビジネス」2021年11月1日号）

古典に学ぶ

商工業の移りゆく様を見る

（解説）歴史家は、百年を経ると地図の色が変わると言っているが、我々はまたこれによって、商工業の勢力の移りゆく様を見ねばならぬ。将来の商工業はいかに変化するであろうか。その変化について、我々はいかなる覚悟をもってこれに応ずるべきであろうか。我々の考慮すべき所、用意すべき点はつまりここにあるのだ。

（参考：渋沢栄一「論語と算盤」：国書刊行会）